

DII Program

'Solution Design Phase' SEMINAR

表題: 東京工業大学の理系学生になぜ「メディア論」を教えるか？

— 東工大のリベラルアーツ教育の意味と実践 —

日時: 2021年12月3日(金) 16:30-18:00

場所: 名古屋大学 IB電子情報館 IB014講義室

講師: 柳瀬博一氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 教授(メディア論))

言語: 日本語

概要:

東京工業大学は2016年、従来の教養課程を一新し、リベラルアーツ研究教育院をスタートし、1年生から博士課程まで、全学年に対して、リベラルアーツ教育を行うようになりました。テクノロジーが世界の未来を決める時代だからこそ、理工系の研究者/技術者には、単なる知識に止まらない、教養＝リベラルアーツが求められる。そこで同院では積極的に大学外から人材を集め、幅広いリベラルアーツ教育を実践することになりました。ジャーナリストの池上彰氏を2012年に教授として迎え入れて以来、社会科学/人文科学の分野から、学者から文化人まで幅広い人材を教員として迎え入れ、「理工系の知をリベラルアーツの力で社会につなぐ」試みを実践してきました。今回、登壇する柳瀬は、30年間日経BP社で記者および編集者として、メディアの世界で仕事をしてきました。学者じゃないメディア人が理工系学生に「メディア論」を、「リベラルアーツ」を、どう実践的に教えているのか？ これまでの試行錯誤をお話します。



略歴:

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授(メディア論)。

1964年生まれ。静岡県浜松市出身。慶應義塾大学経済学部卒業後、日経マグローヒル社(現・日経BP社)に入社し「日経ビジネス」記者を経て単行本の編集。『小倉昌男 経営学』『日本美術応援団』『社長失格』『アー・ユー・ハッピー?』『流行人類学クロニクル』『養老孟司のデジタル昆虫図鑑』などを担当。2006年「日経ビジネスオンライン」立ち上げに参画、のちに同企画プロデューサーとして広告企画を数多く担当。2013年には東工大のリベラルアーツ改革を記述した『池上彰の教養のススメ』を編集する。TBSラジオ、ラジオNIKKEI、渋谷のラジオでパーソナリティとしても活動。2018年3月日経BP社を退社、同4月より現職に。著書に『国道16号線「日本」を創った道』(新潮社)、『インターネットが普及したら、ぼくたちが原始人に戻っちゃったわけ』(小林弘人と共著、晶文社)、『「奇跡の自然」の守りかた』(岸由二と共著、ちくまプリマー新書)、『混ぜる教育』(崎谷実穂と共著、日経BP社)。なお、蛇足ながら、名古屋大学の天野浩先生の高校の後輩になります(浜松西高1983年卒)

※事前申し込み (ichiro.nishimoto@dii.engg.nagoya-u.ac.jp)